

# 島のむんがたり

〜ハマオリあれこれ〜

かつて、島の三大遊興日といえ  
ば、「シキユマ」「十五夜」そして「ハ  
マオリ」です。今回は、広報とく  
のしま8月号に掲載するため、時  
期的に近い「ハマオリ」を紹介し  
たいと思います。

徳之島のハマオリは、集落に  
よっては、「はまくだり」や「は  
まもり」などと呼ばれたりします。  
ハマオリは、祖先の霊を迎えて慰  
める意味合いが強いです。ハマオ  
リの日の前に仮設小屋（ヤドリ）



井之川集落の浜下り

を建て、ヤドリの隅に十センチほ  
どの小石でコの字状のカマと呼ば  
れるものを作り、その上にカッシ  
リと藁で作った輪に十文字の管を  
組み合わせたものをのせます。当  
日は、親族集団ごとにごちそうを  
持って集まり、前年のハマオリは  
以降の新生児の額を潮でぬらし、  
海岸の白砂を踏ませるミイーバマ  
フマシがおこなわれています。ハ  
マオリが終わると、その夜、井之  
川集落では夏目踊りが夜を徹して  
踊られ、亀徳集落ではネンケとい  
う水のかけ合いが行われます。  
かつては、各集落で、旧盆後に  
くる丙（ひのえ）・丁（ひのと）・  
戊（つちのえ）の3日間にわたっ  
て行われていました。現在では、  
井之川集落以外では行われなくな  
り、平成11年から新暦8月の盆が  
終わった最初の土曜日に行われる  
ようになりました。

沖繩や他の奄美諸島の浜下り

は、旧暦3月3日（新暦だと3月  
下旬から4月上旬）に、健康祈願  
のため潮に手足を浸して清める行  
事です。ごちそうを詰めた重箱を  
持って浜辺へ行き、ご先祖に供え  
た後、浜辺へ下りて重箱のごちそ  
うを食べながら潮干狩りなどをし  
て、過ごす地域が多いです。また、  
沖繩の集落の中には、海難事故な  
どで亡くなった人の霊を弔う意味  
合いをもつこともあります。沖繩  
のハマオリの由来の一つには、年  
頃の娘が青年に化けたアカマター  
の子どもを身ごもったため、砂浜  
に下りて白い砂を踏んで身を清め  
たという昔話があります。与論島  
では、はじめてハマオリを迎える  
男の子にはカゴを背負わせ、女の  
子にはザルを持たせたり、ぞうり  
をはかせるようです。

同じ「ハマオリ」という名前でも、行事の意味や時期が大きく異なるのは興味深いですね。

（郷土資料館 大屋匡史）

問 郷土資料館

☎ 0997-82-2908